

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520383

研究課題名(和文) ステファヌ・マラルメ文庫の総合的調査による19世紀末&lt;文学場&gt;の書誌学的研究

研究課題名(英文) Bibliographic studies of "literary fields" late 19th century by survey of Library Stephane Mallarme

研究代表者

中畑 寛之 (NAKAHATA, Hiroyuki)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：70362754

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円、(間接経費) 540,000円

研究成果の概要(和文)：マラルメ記念館が保管する詩人の蔵書すべてを精査し、書込み等の有無を含めた書誌データを蓄積した。これに書簡集や古書店などの目録から集めた情報を加え、330頁程の『ステファヌ・マラルメの書齋』を完成させることができた。詩人が読んだと思われる約1800冊の本を著者のアルファベット順、そして刊行年順に整理した同書は、彼を中心に形成されていた19世紀末フランスの「文学場」の様態を書物という具体的なものによって可視化してみせただけでなく、詩人の読書経験をも明らかにしている。それゆえ、マラルメが夢想する「文芸共和国」について考察するためにも、また彼の思考形成を問い直すためにも貴重な基礎資料となるだろう。

研究成果の概要(英文)：I browsed all the books kept at Stephane Mallarme Museum, for accumulate their bibliographic data. And I supplemented this data by additions of information that is found in the Correspondence of the poet or catalogs for sale, etc., << Bibliotheque de Stephane Mallarme >> was finally completed. This book, in alphabetical order by author, then by year of publication, could make visible a "literary field" of France fin de siecle, or it clarify the reading that Mallarme had practiced daily : Hugo, Gautier, Banville, Poe, Balzac, Michelet and Renan, etc. It will benefit not only to those who study the Republic of Letters dreamed by the poet, but also to those who reappraise the formation of young Mallarme's thought.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)

キーワード：ステファヌ・マラルメ 書誌学 文芸共同体 フランス データベース

### 1. 研究開始当初の背景

これまでに我々は、「ステファヌ・マラルメを中心とする19世紀末フランス第三共和制の〈危機〉の諸相研究」において政治的・社会的観点から、また「ステファヌ・マラルメの演劇論と『共和国』の関係についての研究」では演劇的観点から、詩人による書くという「行動」を多角的に研究してきた。その際、出来事の現場から考察するという方針を採用した我々は、詩人が直面した社会的・政治的事件、彼が観た芝居、読んだ本を可能なかぎり資料的に再現しようと試みた。彼の精神の針が鋭く反応しているまさにその時空間から詩人のエクリチュールを捉えようとしたのである。2009年に刊行した『世紀末の白い爆弾 ステファヌ・マラルメの書物と演劇、そして行動』(水声社)はその大きな成果であった。しかしながら、詩人晩年の評論「ある主題による変奏」の社会的対部に関しては議論を展開することが出来たと思う反面、そういった社会的出来事がマラルメに促した自己批判、つまり〈危機〉の時代を生きる文学者としての態度については扱う余裕がなく、彼が夢想する文芸共和国の解釈をさらに深める必要を強く感じた。この不備は、「ある主題による変奏」11篇のうち幾つかのテキストを取上げなかったからだけでなく、ローマ街の詩人が現実に創り上げていた多彩な人的ネットワークの実体を十分に把握できていないことにも原因があったといえる。マラルメはなぜあれほどの労力と時間とを使って多くの手紙を書き送り、また火曜会という小さな集まりを大切に維持していたのか？

1874年以降ヴァカンスの度毎に詩人が滞在するようになるヴァルヴァンの別荘を転用したマラルメ記念館が所蔵する資料を調査する機会を得ることで、書物を基盤とした「精神の握手」による文芸共同体のあり方を問い直すだけでなく、国籍も年代も職業もさまざまな人間たちが集い、ある者は留まり、ある者は去って行った火曜会に代表されるその〈文学場〉についても新たな視点から論じることができるのではないか。従来のように書簡や回想を用いて個別に交友関係を研究するのではなく、書誌学的な知見を活用することで、それぞれの交友をよりマクロなレベルから連携させ総括し得るような総合的な研究の方法を構築したいと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は、ヴェレーヌ=シュル=セーヌ県のステファヌ・マラルメ記念館に保管されている詩人の蔵書、そして書簡などと言及される本を詳しく調査することによって、書誌学的な観点から、19世紀末フランスを生きたひとりの詩人の思考形成および彼を中心に形成されていた文学場を再考するこ

とを目的とする。

これまで専ら書簡を援用しながら議論されてきた初期マラルメの思想(たとえば、カザリスやルフェビュール宛の私信から考察される1860年代後半の精神的危機)について、その階梯や実態を彼が読んだ本から跡づけ、新たな視点から論じることを試みたい。また我々は詩人の読書経験・読書実践を再構築することさえできるかもしれない。一例を挙げておくと、青年マラルメとカトリックとの関係(あるいはもっと広く、信)について、彼が手に取ったルナンやミシュレなどの著作からアプローチすることで、同時代の文脈のなかで対照的に考察することができるのではないだろうか。

火曜会を主催するマラルメの周りには魅力的かつ有力な人的ネットワークが存在し、多様な機能を担っていたが、我々は書物を介して結ばれ維持される文学者たちの交友のあり方を通して、それが織り成す精妙な関係性を書誌という形で可視化することによって、いわゆる〈危機〉の時代にマラルメが夢想した「文芸共和国」について具体的に・実証的に明らかにしたいと思う。ここでは、言葉、そして詩について考え抜いたマラルメの根源的な疑い(あるいは絶対的な信)文学の存在理由が問われ(確認され)ているのである。これは「文学基金」という詩人晩年の提言を真の意味で理解するためにも必要な準備作業となるだろう。以上の目的のために、我々の調査によって得られたデータを順次整理し、誰もが簡便に利用できるよう形での公開を目指す。

### 3. 研究の方法

記念館が現在保管している詩人の旧蔵本を完全カタログ化=データベース化することが本研究の主要な作業となる(そのため予想以上に多くの時間をフランスでの資料調査に費やすことになった)。ただしマラルメの蔵書の一部はすでに散逸してしまっており、その全体像を記念館の蔵書だけから提示することはもちろん不可能である。そこで、失われた書物に関しては、ガリマール社から刊行された『書簡集』、ニゼ社の『資料集』、そしてオークションや古書店のカタログなども縦横に活用し、マラルメが手にし読んだ本を可能なかぎり網羅的に調べ上げていく。現物の再発見と入手はなかなか難しく、幸運にも左右されるので、古書店主から個人的に教えられる情報はとりわけ貴重であろう。我々はすでに、詩人旧蔵のゴーチエ『現代芸術』、マラルメ宛献辞のあるギュスターヴ・カーン『黄金と沈黙の物語』、レオン・ドーデ『カムチャッカの人々』など、蔵書の幾つかを見つけ出している。最終的には詩人の書斎をできるだけ完全に

再現し、『ステファヌ・マラルメの書斎』として調査結果を刊行・公表する。我々としては紙媒体だけでなく、Web 上での公開も視野に入れており、マラルメに献呈された書籍に関しては送り状と礼状が確認できる場合が多いので、Web 上では献本の際に著者とのあいだで交わされたやり取りを可能な限りリンクさせたい。同時代の書評があればなお良いだろう。一冊の本の出版が 19 世紀末ヨーロッパの文学空間に加えた襞の動きを、容易に、しかも多角的に確認出来るはずである。このように研究基盤の整備を進めることで、文学者たちの交流、彼らのあいだの人間関係を、不可視な内的関係によってではなく、本の贈呈という眼に見える具体的な関係によって捉え直し、再考することが可能になると思われる。書誌学的な知見を大いに活用し、火曜会に代表されるその〈文学場〉を、よりマクロなレベルから連携させ総括し得るような方法論それ自体の構築も必要となるにちがいない。

#### 4. 研究成果

当てが外れた点もあるが（我々の予想を裏切り、蔵書に書込みはほとんどなかった）、ささやかながら小さな発見も幾つかあり、マラルメ文庫の実地調査についてはかなり満足のいく結果が得られた。2011 年度から 3 年の歳月をかけて、記念館が保管する詩人の蔵書すべてを一頁一頁精査し、書込み等の有無を含めた書誌データを丁寧に蓄積してきた。これに書簡集や古書目録等から集め、本屋を廻り、古書店主から教えられた情報を加え、我々は 330 頁程の『ステファヌ・マラルメの書斎』をなんとか完成させることができた。彼が手にした、そして読んだと思われる約 1800 冊の本を著者のアルファベット順、そして刊行年順に整理した同書は、マラルメを中心に形成されていた 19 世紀末の世界的規模の〈文学場〉の一樣態を書物という具体的なモノによって可視化してみせただけでなく、彼の読書経験についてもかなりの程度まで明らかにしてくれるのではと思う。それゆえ、詩人が夢想する「文芸共和国」について考察するためにも、また彼の思考形成を改めて問い直すためにも、さらには 19 世紀末の文学空間を俯瞰しようとする際にも、多くの研究者にとって貴重な基礎資料となるにちがいない。ユゴー、ゴーチエ、バンヴィル、ポーの著作が多いのは当然だが、マラルメがバルザックの愛読者であったとは知らなかった。著作権に関するあの本は「文学基金」のための資料だったのか等々、ここに並ぶ著者名・署名を眺めているだけで面白い研究テーマが浮かんで来そうな『ステファヌ・マラルメの書斎』は関心を持ってくれる内外の研究者に冊子体で配布する予定である。

この他には論文を 1 本書き、4 件の発表を行なったが、新しい論点を提示し興味深い分析を展開できたわけではなく、それぞれの発表の下支えに我々の研究による知見をやや活用したにすぎない。調査と情報整理に追われてしまったのがその原因である。旧蔵本の書誌データは今後も Web 上で更新され続けていくことになるが、ひとまず整理の終わった今、マラルメが夢想していた「文芸共同体」の内実について、そして彼の思考形成の一端についても、ようやく詩人自身の書斎という場から本格的な議論を開始することができるようになったのである。方法論を練り上げつつ、本研究の成果を基にした仕事をこれから公にしていきたいと考えている。そして、我々のような問題意識を有する研究者との国際的な共同研究へと本研究を発展させていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

中畑寛之、ステファヌ・マラルメの蔵書、EBOOK、査読無、第 24 号、2012、41-58

〔学会発表〕(計 4 件)

中畑寛之、マラルメ詩を演出するベケット（しかし彼の芝居は「観客の感性に訴えかける。知性ではなく」）、日本サミュエル・ベケット研究会第 42 回例会、広島大学、2013 年 12 月 14 日

中畑寛之、19 世紀末フランスのワグネルリズムとマラルメ、日本フランス語フランス文学会ワークショップ「リヒャルト・ワーグナーと「フランス」」、別府大学、2013 年 10 月 27 日

Hiroyuki NAKAHATA, La Crise de vers n'aura pas lieu — Parnassiens et Symbolistes, Colloque international « Histoire par le livre », Université de Kobe, le 23 septembre 2013

中畑寛之、『アナトールの墓』の彼方へ「小さな記念碑」を建てるために、マラルメ・シンポジウム 2013「マラルメは、現在……」、慶応義塾大学、2013 年 3 月 26 日

〔図書〕(計 2 件)

中畑寛之、Éditions Tiré-à-Part、ステファヌ・マラルメの書斎、2014、330

大出敦、竹内信夫、立花史、松村悠子、永倉千夏子、中畑寛之、黒木朋興、坂口周輔、安川智子、水声社、マラルメの現在、2013、396 [175-205]

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.geocities.jp/mal\\_archives/](http://www.geocities.jp/mal_archives/)

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

中畑 寛之 (NAKAHATA, Hiroyuki)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：70362754

研究者番号：

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：